

随想

まちづくりは人づくりから



中山 正隆

(和歌山県有田川町長)

一. はじめに

平成一八年一月一日、吉備町・金屋町・清水町の三町が合併して、有田川町は誕生しました。町名が表すとおり、世界遺産・高野山を源流とする有田川が、町の中央部を東から

西へと流れています。

有田川流域の豊かな風土は、バラエティに富んだ農林産物を生み出しています。三五・七七平方キロメートルという広大な町土からは、全国的に有名な地域ブランド・有田みかんをはじめとする柑橘類、生産量日本一を誇るぶどう山椒、花卉、高冷地野菜など、さまざまな農林産物が生産されています。

また、自然豊かな国定公園や県立自然公園を有しており、代表的な景勝地としては、白い風車・青い空・色とりどりのコスモスが織り成すコントラストが美しい鷲ヶ峰コスモスパーク、ススキ草原とパノラマビューが楽しめる生石高原、「日本の棚田百選」にも選ばれている「あらぎ島」などがあります。

このあらぎ島を舞台に、平成二五年に第一九回全国棚田サミットが開催される予定です。全国に有田川町の魅力を発信する絶好の機会として、住民のみなさんとともにおもてなしの準備を進めてまいります。

二. 個性ある自治体へ

地方分権時代を生き抜くためには、個性と魅力あるまちづくりを戦略的に推し進めていく必要があります。そのためには経営戦略と同様に、人材戦略が不可欠となります。優れた人材とチームを持たない組織では、いくら優れた計画があっても、実行力を持つことはできないからです。

平成二二年一〇月、人材育成のマスタープラン

ランとも言える有田川町人材育成基本方針を改訂しました。この中では、合併後四年余りを経て見えてきた組織・人事上の課題に対し、具体的にどう対応していくのかを明記しています。また、当町の求める職員像として、「アイデアをかたちにする職員」「自ら考え行動できる職員」「チームプレーができる職員」の三つを掲げています。既成概念にとらわれない豊かな創造力と、組織を通してそのアイデアを実現させる行動力を備えた「自律型職員」「自律型組織」への転換がテーマです。

三. 人物重視の採用試験へ

当町が目指すこれらの職員像・組織像の実

